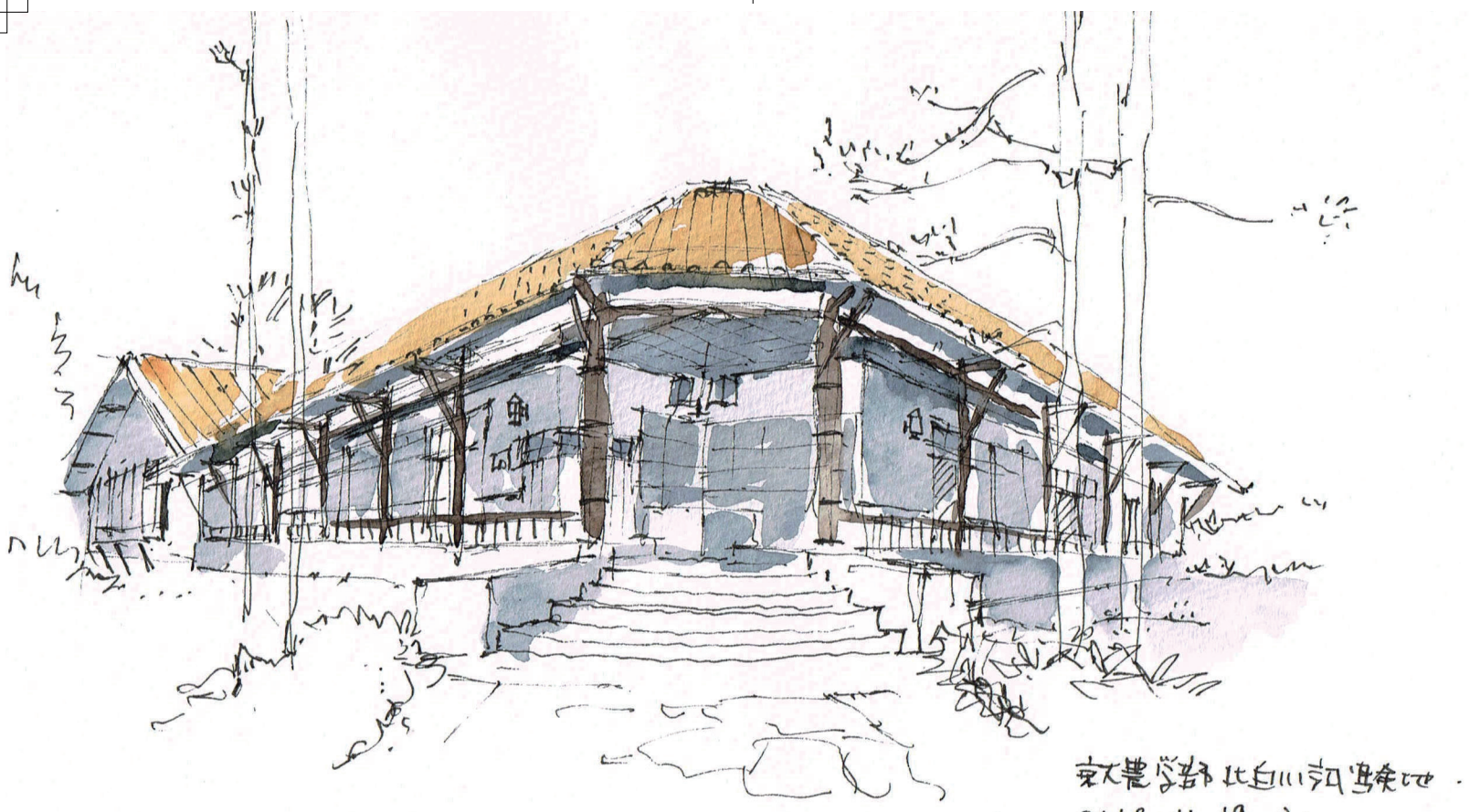


大倉三郎 1931 年設計

二〇一九（平成三十一）年

一月十九日（土）開催

午後一時 ― 五時

参加無料・要申し込み

先着 七十名

建築家 大倉三郎と和のすまい

於 京都大学フィールド科学教育センター北白川試験地
（旧京大農学部演習林事務室、木造、大倉設計）

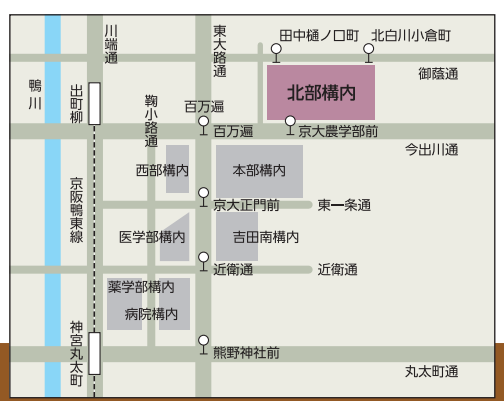
講演

石田 潤一郎 氏（京都工芸繊維大学名誉教授）

1952年鹿児島市生まれ。工学博士、専門は近代建築史・都市史。2000年に第4回建築史学会賞、2003年に日本建築学会賞（論文）を受賞。主な著書『都道府県庁舎』（思文閣出版）『関西の近代建築』（中央公論美術出版）『関西のモダニズム建築』（監修・共著 淡交社）など。昨年のLIXILギャラリーでの展示「武田五一の建築標本」の図録に「武田五一が伝えたもの」を執筆。

西澤 英和 氏（関西大学教授）

大学院以来、鉄骨構造学、耐震工学、材料強度学を専門としてきたが最近は、重要文化財を初めとする社寺仏閣、民家や町家、さらに明治以降の煉瓦造などの歴史的な建築の耐震性や構造対策、保存活用について建築構造の立場から調査や実験などに力を注いでいる。



京都大学吉田キャンパス北部構内　旧演習林事務室
京都駅よりバス約30分または京都市営地下鉄
国際会館行（約10分）今出川よりバス約30分

主 催 京都府すまいづくり協議会

協 力 和のすまい推進関係省庁連絡会議
（国交省、農水省、経産省、林野庁、文化庁、観光庁）

和の住まい推進リレーシンポジウム in きょうと

参加申込書

FAX.075-222-1700

ご氏名

所　属

ご連絡先（TEL. または FAX.）

定員を超えたため受付できない場合にご連絡いたします。

参加項目　参加希望項目にチェックしてください

☐ シンポジウム（無料）　☐ 意見交換会（会費 5,500 円）

※当日ご集金させていただきます。尚、12 月 29 日以降のキャンセルは、後日会費をお支払いいただきますのでご了承ください。

プログラム

午後 12 時 30 分	受付開始
午後 13 時 00 分	開 会、あいさつ
午後 13 時 10 分	省庁タイム　各官庁の政策発表
午後 13 時 40 分	休 憩（5 分間）
午後 13 時 45 分	講 演 1　石田 潤一郎氏（1 時間 30 分）
午後 15 時 15 分	休 憩（10 分間）
午後 15 時 25 分	講 演 2　西澤 英和氏（1 時間 30 分）
午後 16 時 55 分	閉 会、あいさつ

京大建築学科1期生の大倉三郎は卒業後民間設計事務所に勤めていたが、京大農学部新設に際して恩師武田五一によって京大営繕課へ招かれた。大倉は農学部の多くの校舎を設計することになる。
農学部北白川試験地（旧演習林事務室）では東大寺風の金輪工法が試されている。これは当時武田たちが東大寺の修理に関わっていたことから、古代工法を現代に応用しようとしたものだ。武田は関西の古社寺修復の責任者であったから、伝統木造工法の復興を通して日本の新しいスタイルを生み出そうとしていた。
試験地のショーケースには台湾ヒノキの輪切り標本が展示されている。これは農学部設置が早い時期から建材研究の一環であったことを教えてくれる。京大は台湾のほか樺太など全国に演習林を有していた。農学部新設は国内すべての建材を視野に入れた大掛かりな林業再生を目論んでいたと考えてよい。
大倉はこれらほとんどの農学部校舎を設計した。大倉はそこで日本の伝統工法やスイスなど他国の木造構法を積極的に試している。これは日本の新しい木造構法の模索と考えてよい。今回の講演会では大倉や武田たちが林業再生を通して新しい日本の和のすまいを構築しようとしたことをテーマとする。

和の住まい推進リレーシンポジウムinきょうと
平成31年1月19日（土）

◆ 交通ルート

会場【京都大学吉田キャンパス北部構内　旧演習林事務室】まで

JR京都駅

京都市バス206系統・北大路バスターミナル行き

↓　－32分ほど－

「百万遍」にて下車

百万遍（東大路今出川の交差点）を東（京大方面）にしばらく進み、左手に並木が見えてくるので、その道を中に入ってください。（北部構内）その後、地図の15番を目指してください。